- プレイヤー名 -セリーヌ・シンシア

メインクラス	アコライト	Lv.1:		レベル	3
サポートクラス	バード	Lv.1:	バード	性別	女性
称号クラス				年齢	16
種族	フィルボル			境遇	天涯孤独
出自 (効果) 神官				目標	復讐

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	6	8	9	12	9	15	9
ボーナス	2	2	3	4	3	5	3
クラス修正	0	1	0	1	1	2	1
他修正							
能力値	2	3	3	5	4	7	4

HP	37
MP	55
フェイト	5

装備品			命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ナイフ	至近	0	3	0	0	0	0	0
左手	ナイフ	至近	0	3	0	0	0	0	0
頭部	ハット					1			
胴部	ローブ					2			
補助	ファインポイントアーマー				-1	5			
装身具	楽器								
	能力値		3	0	3	0	7	7	7
スキル								3	
その他									
	総計(右)		3	3					
総計(左)			3	3	2	8	7	10	7
	総計(両)		3	6					m
	ダイス数		2 d	2 d	2 d				

	能力值	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	4			4	+ 2 d
トラップ解除	3			3	+ 2 d
危険感知	4			4	+ 2 d
エネミー識別	5			5	+ 2 d
アイテム鑑定	5			5	+ 2 d
魔術判定	5			5	+ 2 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品							
冒険者セット	強酸瓶						
ポーションホルダー	強酸瓶						
ハイHPポーション	ドレス						
ハイHPポーション							
ハイMPポーション							
ハイMPポーション							
ハイMPポーション							
バックパック							
滑剤瓶							
ンロ ナルソー							

現在重量	:	11

11 195 最大重量: 所持金:

預金・借金:

所持品								
冒険者セット	強酸瓶							
ポーションホルダー	強酸瓶							
ハイHPポーション	ドレス							
ハイHPポーション								
ハイMPポーション								
ハイMPポーション								
ハイMPポーション								
バックパック								
滑剤瓶								
滑剤瓶								
強酸瓶								

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	Х Т
ニンブル	*	-	パッシヴ	-	自身	_		
効果: 作成時に行動値+3								
プロテクション	*	3	DR直後	20m	単体	自動成功	1/MP	
効果: 対象が受ける予定のダメージに-[SLd]								
アフェクション	*		DR直後	20m	単体	自動成功		
効果: 対象が受ける予定のダメージを0に								
キュア	*	5	メジャー	20m	単体	魔術判定		
効果:				バッスラ				
アンセム	*	6	メジャー	20m	範囲	呪歌判定		
効果:				を [3D+0	CL×2]点	回復		
ジョイフルジョイフル	3	7	メジャー	20m		呪歌判定		
効果:				対象を未				
エチュード	2	4	メジャー			呪歌判定		
効果:				メージに+	[SL×3]			
シルバリィソング	*		パッシブ					
効果:				呪歌判定				
ファイトソング	*		セットアップ			自動成功		
効果:				スキル				
ミュウスノウリッジ	*		パッシブ		自身			
効果:		Г		知力判定	_			
インテンション	*		パッシブ		自身			
効果:		Г		【最大MP】				
フェイス:アエマ	*		パッシブ		自身			
効果:				回復効果				
ブラフ	*		パッシブ		自身			
効果:				【精神判定	≧】+1d			
効果:								
効果:								

自分中心主義で身勝手に振る舞う高圧的な女の子。 物語が大好きで、自分の言葉で物語を紡ぐことが夢。

そのため物語の題材となる冒険者を求めて冒険者をしている。

一というのは表の話。

本当の目的は、幼い頃に親族を惨殺した相手への復讐。

ただし自らにその実力がないことを自覚しており、代わりに復讐を果たせる実力者を求めている。

もちろん表立って口にしては誰も協力してくれないと判っているので、『物語の題材にしたい』という名目で実力者を求め旅をしている。 そんなちょっぴり危ない雰囲気を漂わせる女性。

――と、ここまでが建前。

実際は自分を題材にした物語を紡ぐために上記の設定を演じているに過ぎない。

「同情しちゃった? ごめんね、それは嘘なの」

「うふふ。騙されちゃったのね、このお馬鹿さぁん」